



「笑顔とつながり」

永田台

ユネスコスクール11周年

No.555 3月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和4年2月28日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



一日一日の積み重ねを経て

校長 武山 朋子

記念すべき555号が、今年度末の学校だよりとなりました。

下校時刻に昇降口で、1年生の子どもたちを送り出す時のことです。教室から並んで永田台ホールまで来るのは入学時から同じですが、最初のころはホールに色別(帰り道のコース別)に並び、「次はオレンジコースさん」と、声をかけられた順に靴を履き替えていました。今はコース別に呼ばなくても、列の前の人から順に上手に譲り合い、順番に靴を履き替えて昇降口を出ていきます。「さようなら」と声をかけると元気な声で「さようなら～」と返ってきますし、力いっぱい手を振ってくれる子もいます。その笑顔を見ていると、「今日も一日楽しかったんだなあ。」と思えて、こちらまでうれしくなります。そしてつい、「また明日ね。待ってるね。」と大きな声で呼びかけてしまいます。

以前、特別支援学校を訪問し、1日見学をさせていただいた時のことです。その時にいちばん驚き、今でも忘れられないのが、帰りのスクールバスを送り出す時の様子です。全員が乗り終えたバスが1台、また1台と走り出していくのを、職員の皆さんが外に並んで、両手を大きく振って見送っているのです。まるで修学旅行先で宿を出発する際に、観光バスに向けて宿の方がしてくださるように。その驚きを職員の方に伝えると、「いろいろな障がいや病気を抱えている子どもたちなんです。だから、毎日学校に来られるとは限らないんですよ。今日は学校に来られてよかったね、また明日も来られるといいね、って一日一日思うわけですよ。そういう気持ちの表れですかね。」と笑顔で話してくださいました。

それを伺って、ああ、本当にそうだ、それはどこの学校でも同じことだ、と強く心に思いました。それ以来、登校してくる子どもを迎えられることがとても幸せに思えて、また、元気に帰っていく子どもを送り出すことができることも幸せに感じて、下校時の子どもたちのざわめきが聞こえてくるとつい、やりかけの仕事を放り投げて飛んで行ってしまいます。そして「また明日ね～」と手を振っています。

そんな毎日を一日一日と重ね、それを一年一年と重ね、今年度最高学年として学校を引っ張ってきた6年生の子どもたちがもうすぐ永田台小学校を巣立っていきます。朝の北門で挨拶運動に立っていた運営委員の6年生が、「短かったな、もう終わっちゃう。」とつぶやくので、「どうだった？小学校生活は？」と尋ねると、「できなかったこともあったけど、代わりにできたこともいろいろあって、楽しかった。」と答えてくれました。中でも「地域の人を元気づけられたこと」を挙げてくれたのがなんだかとてもうれしく、頼もしく思えました。このまちで育てられた子どもが、このまちを創るひとになっていく。永田台小学校の目指す姿です。

本年度も、多くの皆様のご理解とご協力をいただきましたこと、そして子どもの育ちを支えていただきましたことに心より感謝申し上げます。

